

鉄砲洲神社詩吟 素読論語

(平成 27 年 11 月 13 日)

衛霊公 第十五

【二】子曰く、賜や、女 予を以て多く学びて之を識せる者と為すかと。対えて曰く、然り、非なるかと。曰く、非なり。予は 一 以て之を貫くと。

孔子は子貢に対して、お前は私を見ていて、色々なことをたくさん習ってそれを記憶している。ひとつひとつ覚えている人間だと思うのかね。要するに物知りだと思っているのかと聞いたところ、子貢が答えているには、その通りです。その通りではないでしょうか。孔子は、そうではない。基本的な道をもって、一生涯通ってきていると答えました。

「予は一を以て之を貫く」は、あちらこちらで使われています。これは、ぶれないということです。その時その時で答えが変わったり、行動が変わったりはしない。格言のようによく使っています。

今の安倍さんを見ていると、憲法改正をしたい気持ちがあつて、それを通さんがために、色々な手練手管を使っていると見えます。本人が首相を退いてしばらく経てば、「予は一を以て之を貫く」という生涯だったという評価が出るかもしれません。そういう言い方をする時には吉田茂さん、岸さんとかが言われるかと思えます。田中角栄さんは、ちょっと違った形で「一を以て之を貫く」を通した気がします。

【三】子曰く、由、徳を知る者は鮮し。

可愛がっている子路に対しては、言いたいことを言うし、子路も氣楽に先生に意見をする。師弟の情愛のようなものを感じます。何かのお喋りの中で出たのでしょうか。

そういう感覚で見ますと、「徳を知る者は鮮し」は、私が考えている徳というものが本当にわかる人間は、世の中にはとても少ないと、子路に言っても子路はピンとこないはずなので、愚痴を子路に対してこぼしている感じです。

孔子が弟子に向かってこういう愚痴をこぼせる数少ない人間が、子路だなと感じます。

他の編で「陳に在りて糧を断つ」がありますが、それは孔子を襲って、孔子一団を取り

困んで食事が出来ないようにさせてしまって、子路が孔子に対して腹を立てて君子といえども困ることがあるのかと問い詰めたら、孔子が君子でも困ることはたくさんある。だけど困ったからといって取り乱しはしないというやり取りをした後の話です。師弟の間で気楽な話ができる弟子と師匠がいても良いなという気がいたします。

今の時代で見れば、あまりいませんね。普通のお弟子さんと先生という間柄ではなく、隔絶した先生で近寄りがたい先生とお弟子さんという感じです